

武石地域自治センター

令和7年度 重点目標

- 1 辺地計画、過疎地域持続的発展計画に掲げる主要事業等の推進
- 2 まちづくり活動拠点の利活用、参加・協働による地域づくりの推進及び防災体制の強化
- 3 多彩な地域資源を生かした観光の振興、活力ある農業の推進
- 4 地域に根ざした医療の維持・充実

令和7年度 重点目標管理シート

重点目標			辺地計画、過疎地域持続的発展計画に掲げる主要事業等の推進			部局名	武石地域自治センター		優先順位	1 位
総合計画における位置付け		第 1 編 市民が主役のまちづくり 第 1 章 自治の推進による活力ある自立した地域社会の実現 第 1 節 参加と協働による自治の推進			上田再構築プラン Ver.2.0「もっと、前へ」における位置付け	1 大切な市民の命を守り続ける医療体制の充実を推進する 5 DXやGX等の革新的技術でSDGsを推進、人と自然が調和した活力あるまちをつくる				
第四次上田市行財政改革大綱・アクションプログラムにおける位置付け			(1) 将来を見据えた新たな行政サービスへの改革 ア ICTの活用による行政サービスの向上と業務の効率化							
現況・課題	○ 上田市辺地対策総合整備計画、上田市過疎地域持続的発展計画に沿った事業の推進をし、地域のさらなる発展と人口増加につなげていく必要があります。 ○ スマートシティ化への取組は、上田市スマートシティ化推進計画に基づき推進します。 ○ 武石地域は、地域資源として、「美ヶ原高原」「道の駅 美ヶ原高原」を有しており、県内外から多くの観光客が訪問していますが、地域資源を十分に生かし切れていません。									
目的・効果	○ 上田市辺地対策総合整備計画、上田市過疎地域持続的発展計画に沿った事業を推進し、地域のさらなる発展と人口増加につなげる取組を目指します。 ○ スマートシティ化への取組は、個別施策について関係課とともに推進します。					該当するSDGsの目標	3 すべての人に健康と福祉を 11 住み続けられるまちづくりを			
	取組項目及び方法・手段（何をどのように）		期間・期限 （いつ・いつまでに）	数値目標（どの水準まで）	中間報告 （目標に対する進捗状況・進捗度）及び （中間報告の時点で取組項目に対する方法・手段の見直しを行った点）		期末報告（目標に対する達成状況・達成度）			
①	○ 辺地計画に沿った事業の推進と計画の見直し （1）辺地債を活用した事業の計画及び推進		(1) 4月～3月	(1) 計画の推進及び計画の見直し						
②	○ 過疎地域持続的発展計画に沿った事業の推進と計画の見直し （1）過疎債を活用した事業の計画及び推進 （2）空き店舗等活用支援事業の推進		(1) 4月～3月 (2) 4月～3月	(1) 計画の推進及び計画の見直し (2) 交付金実績 2件						
③	○ 武石スマートシティ実証プロジェクト事業関連 （1）実証実験の成果を踏まえ3Dマップの活用等、実装に向けた方向性を検討		(1) 4月～3月	(1) 関係業者及び庁内関係課との連携により調査・研究を実施						
④	○ 武石財産区の財政調整基金を活用した地域振興策 （1）関係者により武石地域の振興策を検討		(1) 4月～3月	(1) 検討会の実施						
特記事項	○市民参加・協働の推進、市民満足度の向上を考慮した点				○取組による効果・残された課題					

令和7年度 重点目標管理シート

重点目標		まちづくり活動拠点の利活用、参加・協働による地域づくりの推進及び防災体制の強化		部局名	武石地域自治センター	優先順位	2 位
総合計画における位置付け		第1編 市民が主役のまちづくり 第1章 自治の推進による活力ある自立した地域社会の実現 第1節 参加と協働による自治の推進		上田再構築プラン Ver.2.0「もっと、前へ」における位置付け		3 福祉を充実し、多様性を尊重した地域共生社会を実現する 5 DXやGX等の革新的技術でSDGsを推進、人と自然が調和した活力あるまちをつくる	
第四次上田市行財政改革大綱・アクションプログラムにおける位置付け		(1) 将来を見据えた新たな行政サービスへの改革 イ 多様な主体が市政に参画・協働する制度づくり					
現況・課題	○ 武石地域総合センター整備事業が令和6年度に完了したため、まちづくり活動の拠点として施設の利用促進を図る必要があります。 ○ 住民自治組織が市民の参加と協働によるまちづくりをさらに推進するため、意見交換や学習会の機会を設け理解を共有しながら地域内分権を進めていく必要があります。 ○ 第二次武石地域全域公園化構想関連事業の推進は、平成22年度策定の当初構想を「美しい武石地域はの景観を存続する」ために自治連、地域協議会、住民自治組織、市の四者で見直し、令和元年度末に第二次武石地域全域公園化構想が策定されたことから、改めて地域住民へ周知するとともに、引き続き、樹木破砕機、乗用草刈機、畦草刈機等の貸出をはじめ、獣害対策、花木苗支給等についても協働による景観整備を進める必要があります。 「信州武石余里一里花桃の里」の運営は、武石地域の地区における代表的な住民組織の取組であり、武石地域全域公園化構想の推進からも運営支援を継続する必要があります。 ○ 自主防災組織の育成と防災訓練の実施は、全国的に自然災害が頻発する中、武石地域では地域内の全自治会で災害時要援護者登録制度による住民支えあいマップが完成しており、自治会ごとの防災、避難体制の整備を進めてきましたが、武石地域は特に高齢化が進行していることから、各種警報発令時および災害時の避難方法、防災の備え、災害時の「自助・共助」等について、さらに住民自ら積極的に取組む自主防災組織の育成が必要です。						
目的・効果	○ 機能的で利便性の高い市民団体の活動拠点および防災拠点とする武石地域総合センターを利活用し、市民との連携を深めることにより多くの市民の社会参加、健康づくり、生きがい対策、地域の賑わいの創出まで含めた市民協働による開かれた地域づくりを推進します。 ○ 地域の取組に対する人的・財政的支援を通じ、住民自らが地域の抱える課題を解決できる仕組みづくりを進めます。 ○ 第二次武石地域全域公園化構想の理念を広く周知し、自らの地域を自らの手で美しくする活動を積極的に推進することで地域コミュニティの活性化が図られます。 「信州武石余里一里花桃の里」に対して、継続して運営支援することにより、武石地域全域公園化構想の推進が図られます。 ○ 自主防災組織の育成と防災訓練の実施は、自主防災組織リーダー研修、各自治会での防災訓練等により、地域住民の防災に対する認識と能力を高め、万が一の災害時にも被害を最小限に留めるとともに、互いに支え合う地域づくりを推進し暮らしの安心につなげます。			該当するSDGsの目標	  		
	取組項目及び方法・手段（何をどのように）	期間・期限（いつ・いつまでに）	数値目標（どの水準まで）	中間報告（目標に対する進捗状況・進捗度）及び（中間報告の時点で取組項目に対する方法・手段の見直しを行った点）		期末報告（目標に対する達成状況・達成度）	
①	○ 武石地域総合センター利活用促進 (1) 人生100年時代づくり・地域創生ソフト事業を活用し、にぎわい広場を活用した武石魅力発信体験事業の実施	(1) 4月～3月	(1) 小動物とのふれあいイベント実施 にぎわい広場スポーツイベント実施 灯具による灯りイベント実施				
②	○ 住民自治組織との連携によるまちづくり事業への支援 (1) 住民自治組織との連携とまちづくり計画に基づく支援	(1) 4月～3月	(1) 地域担当職員を主とした事業協力				
③	○ 第二次武石地域全域公園化構想関連事業の推進 (1) 構想の周知と地域住民による協働事業の支援 (2) 獣害防止柵設置資材等支給事業 (3) 樹木破砕機、草刈機の貸出事業 (4) 「信州武石余里一里花桃の里」運営支援事業	(1) 4月～3月 (2) 4月～3月 (3) 4月～3月 (4) 4月～5月	(1) 自治センターだよりに掲載2回以上 (2) 自治会等3団体以上への支給 (3) 自治会等へ延べ10回以上 (4) 地域活動団体等との協働と支援				
④	○ 防災体制の強化及び防災の向上に向けた取組 (1) 警報・災害対応連携 (2) 防災訓練の実施 (3) 自主防災組織リーダー研修会の実施 (4) 地域との連携による防災対策事業の実施	(1) 4月～3月 (2) 7月～9月 (3) 2月～3月 (4) 4月～3月	(1) 本庁各担当課、武石地区防災支援協会との継続的な連携体制の強化 (2) 参加者150人程度 (3) 全18自治会対象50人程度 (4) 各団体との連携によりワークショップ等、地域防災会議を開催				
特記事項	○市民参加・協働の推進、市民満足度の向上を考慮した点			○取組による効果・残された課題			

重点目標		多彩な地域資源を生かした観光の振興、活力ある農業の推進			部局名	武石地域自治センター	優先順位	3 位
総合計画における位置付け		第3編 誰もがいきいき働き産業が育つまちづくり 第1章 次代へつなぐ農林水産業の振興 第2節 農林業の安定的な生産体制の整備と産地化の推進 第3章 魅力ある観光地づくり 第1節 おもてなしで迎える観光の振興			上田再構築プラン Ver.2.0「もっと、前へ」における位置付け	5 DXやGX等の革新的技術でSDGsを推進、人と自然が調和した活力あるまちをつくる		
第四次上田市行財政改革大綱・アクションプログラムにおける位置付け		(2) 健全で持続可能な財政基盤への改革 ウ 市有財産の適切な管理と利活用 エ 公共施設マネジメントの推進						
現況・課題	○ 観光施設等の公共施設については、施設の老朽化が進む中、将来の人口・財政規模を見据えた施設の在り方が求められています。 ○ 武石番所ヶ原スキー場リフト施設は、計画的な整備が必要とされています。 ○ 将来における地域農業の方向性を明らかにするため、令和6年度に策定した「地域計画」は、地域農業の実態に応じ定期的な見直しが必要とされています。 ○ 森林空間を活かした景勝地・観光スポットについては、森林環境贈与税事業などの有効な事業を展開する必要があります。 ○ 美ヶ原高原台上に残された廃墟物件等は美観上及び保安上課題があり、早急に撤去する必要があります。 ○ 台上の名産センター周辺は魅力ある資源でもあるため、隣接の廃墟物件と併せ再整備が必要です。							
目的・効果	○ 観光施設等の公共施設について、「公共施設マネジメント基本方針」に基づき、財政負担の平準化や縮減を図るとともに、公共施設を適切に維持管理し、時代の変化に対応させつつ有効に利活用することで、必要なサービスの提供を将来にわたり継続します。 ○ 武石番所ヶ原スキー場の第2リフトのハウスは経年劣化が進んでおり、長寿命化のための整備を計画的に実施し、利用者に対する安全性を確保します。 ○ 5年後、10年後の武石地域の農地の維持・発展と地域農業の実態に応じ、定期的に「地域計画」の見直しを行います。 ○ 美ヶ原高原台上の再整備を行うことにより、地域の誇れる観光資源となり、住民の観光地保全意識の向上等に寄与し、武石地域に訪れる人が増えること及び市全体での交流人口の増加が期待できます。 ○ 美ヶ原台上整備について、民間活力の活用も含めた検討により、魅力ある観光資源としての価値を向上させます。				該当するSDGsの目標	  		
	取組項目及び方法・手段（何をどのように）	期間・期限（いつ・いつまでに）	数値目標（どの水準まで）	中間報告（目標に対する進捗状況・進捗度）及び（中間報告の時点で取組項目に対する方法・手段の見直しを行った点）		期末報告（目標に対する達成状況・達成度）		
①	○ 観光施設等の整備事業等の推進 (1) 武石温泉うつくしの湯（機械設備などの更新） (2) 武石番所ヶ原スキー場（リフト整備） (3) 雲溪荘の廃止（公共施設として）に向けた対応 (4) 美ヶ原高原観光バス運行事業 (5) 巢栗溪谷緑の広場案内看板設置 (6) 森林環境譲与税を活用した事業の実施	(1) 4月～3月 (2) 4月～3月 (3) 4月～3月 (4) 4月～3月 (5) 4月～3月 (6-1) 4月～3月 (6-2) 4月～3月	(1) 年度内完了 (2) 年度内完了 (3) 条例廃止、廃止後の検討等 (4) 7/26～9/15の間の土日祝日18日間 (5) 案内看板・誘導サイン設置 (6-1) 巢栗溪谷遊歩道周辺の環境整備 (6-2) 武石公園周辺の環境整備					
②	○ 将来における地域農業の方向性を明らかにする「地域計画」の見直し (1) 地域計画見直しのための地域懇談会の開催	(1) 4月～3月	(1) 検討会議の開催					
③	○ 美ヶ原台上の整備及び資源としての価値の向上 (1) 美ヶ原高原整備事業の実施及び今後の方向性の検討 (2) 美ヶ原高原美術館、道の駅事業者との情報共有	(1) 4月～3月 (2) 4月～3月	(1) 台上の廃墟建物解体に向けた取組の実施と、実施計画へ登載に向けた整備の方向性を検討 (2) 定期的に会合開催					
④	○ 練馬区との連携による事業の実施 (1) 交流事業の検討	(1) 4月～3月	(1) 関係機関との交流事業の検討					
特記事項	○市民参加・協働の推進、市民満足度の向上を考慮した点			○取組による効果・残された課題				

重点目標		地域に根ざした医療の維持・充実			部局名	武石地域自治センター	優先順位	4 位
総合計画における位置付け		第4編 健康・福祉【ともに支え合い健やかに暮らせるまちづくり】 第1章 自分らしい豊かな人生を送る健康づくり 第2節 安心して医療が受けられる環境づくり			上田再構築プランVer.2.0「もっと、前へ」における位置付け	1 大切な市民の命を守り続ける医療体制の充実を推進する		
第四次上田市行財政改革大綱・アクションプログラムにおける位置付け		(2) 健全で持続可能な財政基盤への改革 イ 健全な財政基盤の構築						
現況・課題		○ 地域の人口減少とともに患者数は減少傾向にあり、地域で一番身近な医療機関として、高齢者のみならず誰もが安心して医療が受けられるよう安定的な医療提供体制を構築していく必要があります。こうしたことから、令和3年度に策定した武石診療所のあり方についての方針に基づき、国保依田窪病院との新たな連携体制の検討が必要となっています。						
目的・効果		○ 武石地域唯一の医療機関として、今後も引き続き医療サービスを提供するとともに、医療だけでなく福祉や介護などの関係機関と連携を図り、地域住民の健康増進に寄与します。 また、これまでの在宅医療を大切にした家庭医として、プライマリケア（患者が最初に接する医療の段階）を実践し、生活全般をケアできるような診療体制の充実と診療所の安定した運営を行います。				該当するSDGsの目標		
	取組項目及び方法・手段（何をどのように）		期間・期限 （いつ・いつまでに）	数値目標（どの水準まで）	中間報告 （目標に対する進捗状況・進捗度）及び （中間報告の時点で取組項目に対する方法・手段の見直しを行った点）		期末報告（目標に対する達成状況・達成度）	
①	○ 武石診療所の維持・充実 （1）国保依田窪病院の重点項目に沿った診療所業務の実施 【重点項目抜粋】 5 住民の一番の安心となる地域医療 （2）診療所のPR等情報発信 （3）訪問診療、訪問看護の充実 （4）ふるさと寄附金を活用した財源の確保		（1）3月 （2）4月～3月 （3）4月～3月 （4）4月～3月	（1）令和9年度以降の運営体制の方向付け （2）地域自治センターだよりに記事掲載 年6回 ホームページ更新、エリアトーク、メール、Xによる情報提供 随時 （3）訪問診療件数の増加 （令和7年度当初 18件） 訪問看護件数の増加 （令和7年度当初 3件） （4）ふるさと寄附金の診療所基金への積立額 10,000千円				
特記事項	○市民参加・協働の推進、市民満足度の向上を考慮した点				○取組による効果・残された課題			